

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中原 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

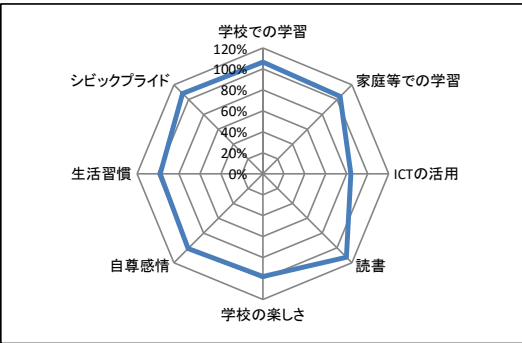
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章から精査・解釈する問題において「短答式」では全国平均を上回っていたが、「記述式」では下回っていた。このことから、文章から情報を取得し理解することはできるが、その情報をもとに考察し、自分の言葉で発信することが苦手であることがわかる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	下回っている
	努力が必要な問題	「榎木の実」に書かれている場面が、「釣りの話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く	
数学	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均と同程度であった。問題別の正答率において全国平均を下回っている問題に関しては、無回答率が多かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	下回っている
	努力が必要な問題	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	
理科	全体的な傾向や特徴など	IRTバンド分布比較において本校は、全国平均と比べて4(上から2番目の難易度)の割合が多かった。そのため全国平均を大きく上回る結果になっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	塩素の元素記号を記述する	上回っている
	努力が必要な問題	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」との問いに対しては98%の生徒が肯定的に回答している。引き続き、豊かな心の育成に向けた取り組み（学校行事、道徳、人権講演会など）を行っていく。
・「読書は好きか」との問いには約80%の生徒が肯定的な回答をしており、さらなる図書教育の充実を図る。
・ICTの活用については、タブレットで情報収集ができると答えた生徒が9割を超えたが、今後は文書やプレゼンテーションの作成ができるような取り組みをさらに推進していく必要がある。
・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」との問いには80%を超える生徒が肯定的に回答しており、地域や社会への関心をさらに高められるよう地域行事等への参加を促していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

本調査の結果から、国語、数学ともに「記述式」の問題における正答率の低さ、無解答率の多さが見られた。授業中に自分の考え等を記述させる取組を増やすことで、苦手意識をなくすような手立てを行いたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習においてはAIドリルアプリを用いることで、紙の課題に苦手意識をもっている生徒の学習意欲を高める取組を行っている。
SNSの利用についてのリーフレット等は、tetoruを用いて配信することで、確実な啓発を行っている。